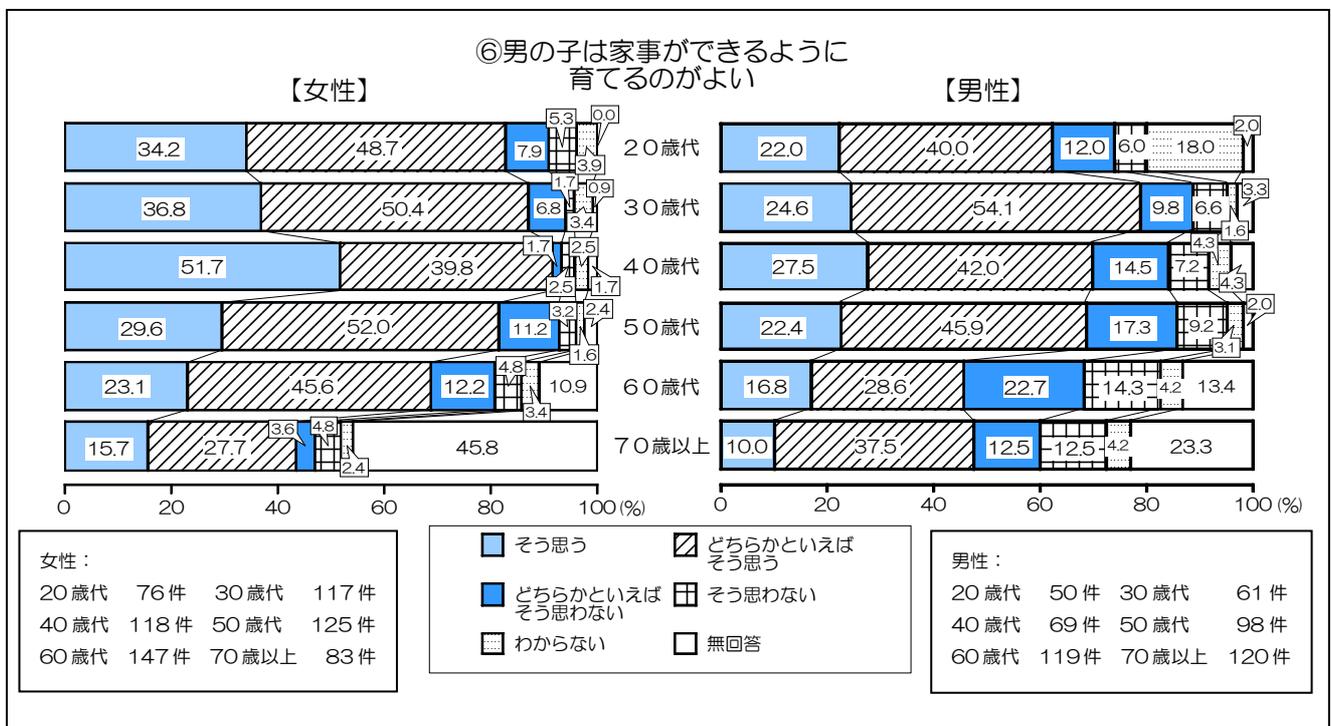
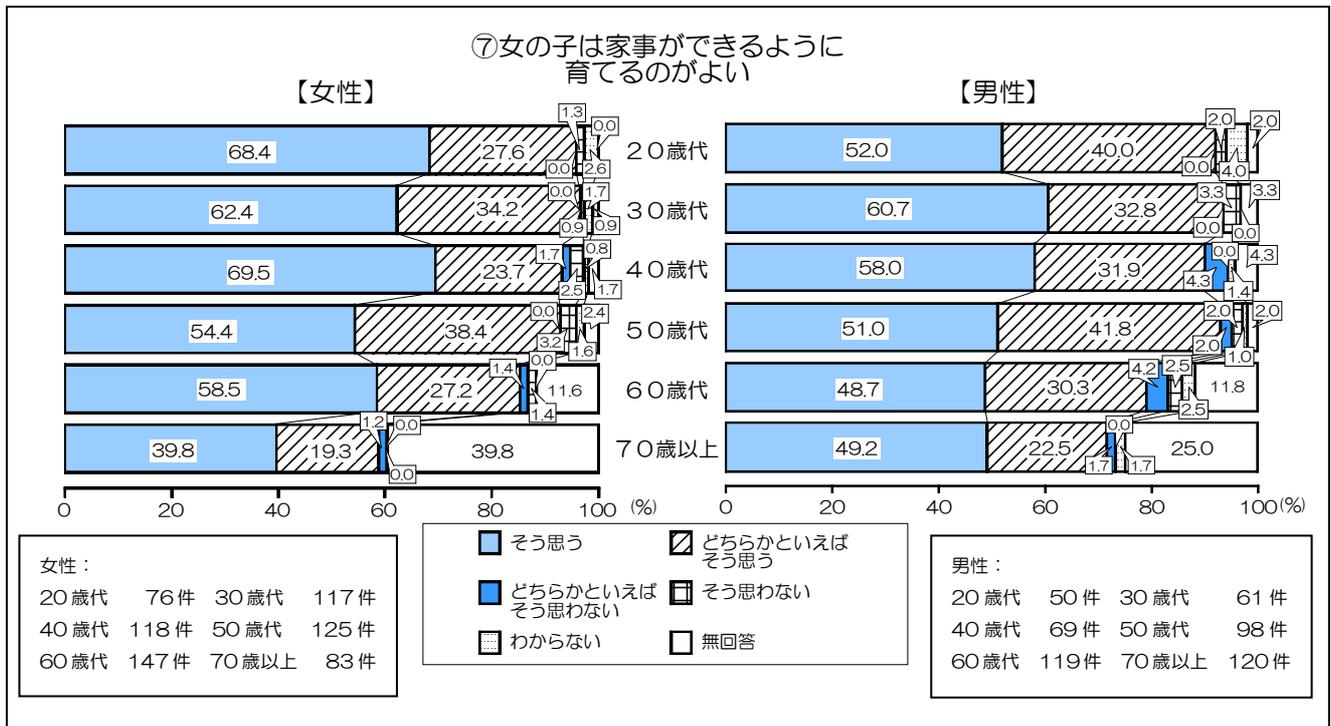


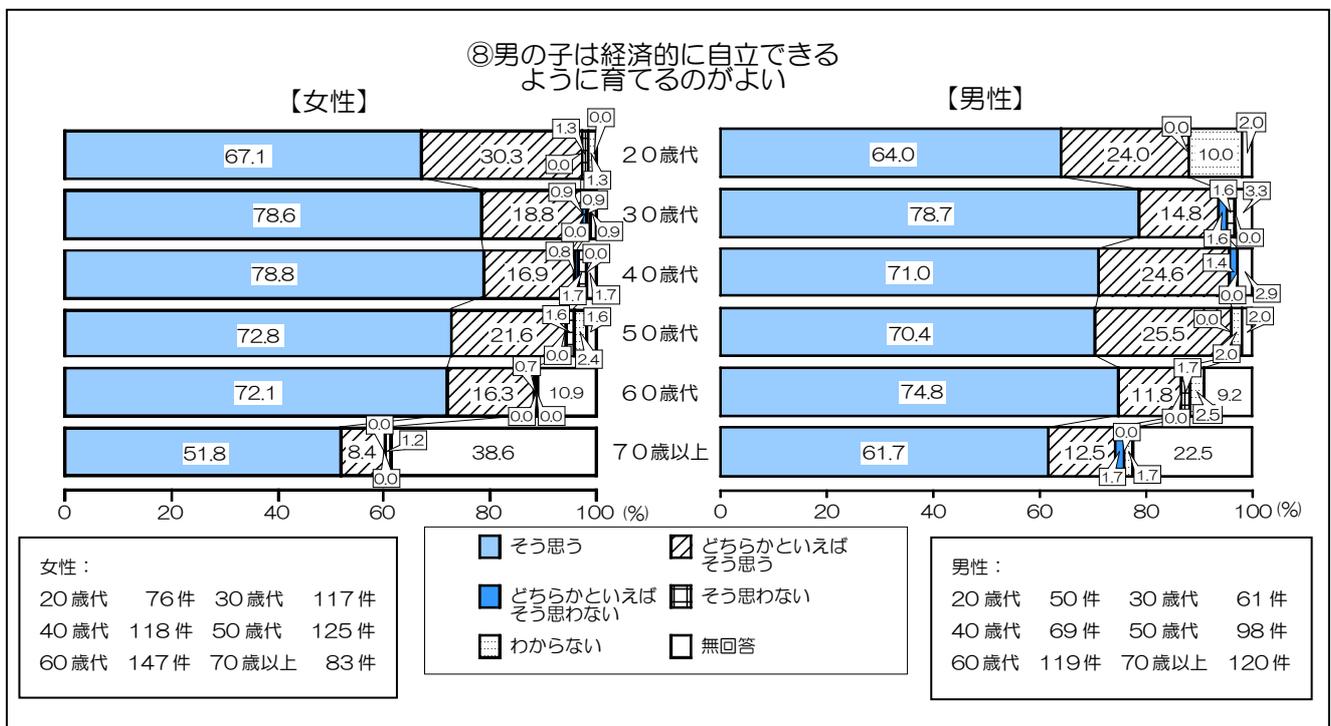
性年齢別にみると、『肯定的意見』は女性では70歳以上を除いて、年代が上がるほど割合は高くなり、60歳代で71.5%と最も高い。逆に、『否定的意見』は年代が下がるほど割合は高くなり、20歳代では46.1%となっている。男性では50歳代以上の年代で『肯定的意見』の割合は高く、7割以上となっている。40歳代以下の年代では『否定的意見』が2割以上となっている。



性年齢別にみると、『肯定的意見』は女性では40歳代で91.5%と最も高く、「そう思う」という人も半数を超えている。年代が上がるほど割合は低くなり、70歳以上では43.4%となっている。男性では『肯定的意見』は30歳代で78.7%と最も高い。『否定的意見』は高齢層で高く、60歳代では37.0%となっている。



性年齢別にみると、『肯定的意見』は女性では 50 歳代以下の年代で9割以上と高く、「そう思う」という人も40歳代以下で6割を超えている。男性でも50歳代以下の年代のほとんどで9割以上と高くなっている。『否定的意見』は40歳代以上の年代で若干高くなっている。



性年齢別にみると、『肯定的意見』は男女とも70歳以上を除く年代で8割以上と高くなっている。「そう思う」という人は女性では30～40歳代で高く、男性では30歳代、60歳代で他の年代と比べ、高くなっている。

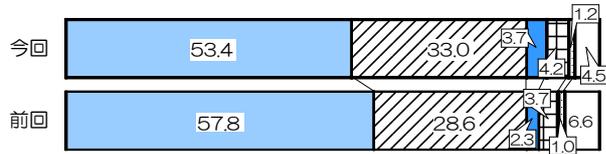


図4-3-2 前回調査比較 子育てについての考え

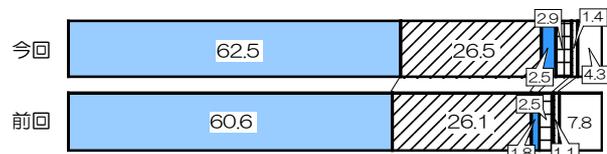
女性：今回 667件 男性：今回 517件  
 前回 573件 前回 437件

①子どもが小さいうちは、母親は育児に専念したほうがよい

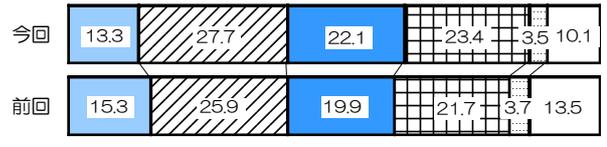
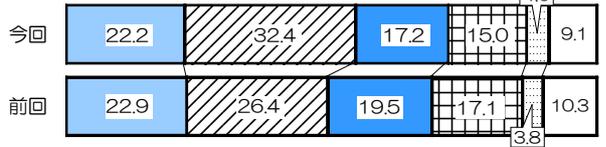
【女性】



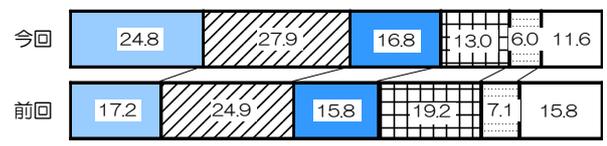
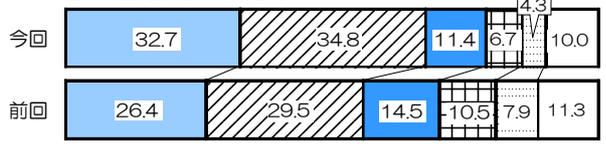
【男性】



②子どもの世話の大部分は、男親にもできる



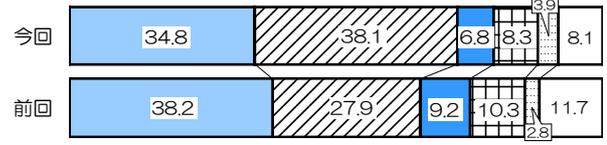
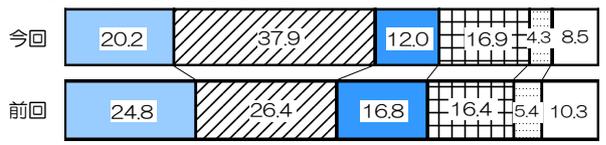
③親が仕事のために、子育て支援サービスを活用してもよい



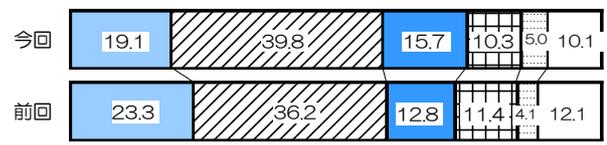
④子どもは、性別にこだわらず個性を伸ばすほうがよい



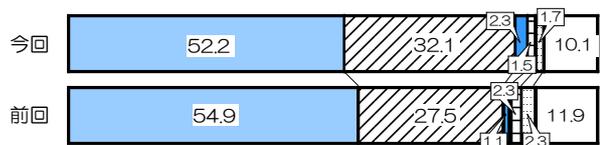
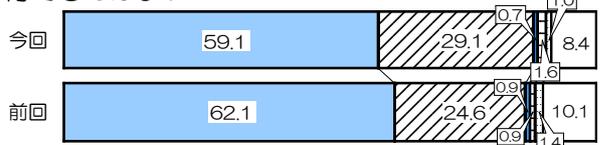
⑤男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい



⑥男の子は家事ができるように育てるのがよい

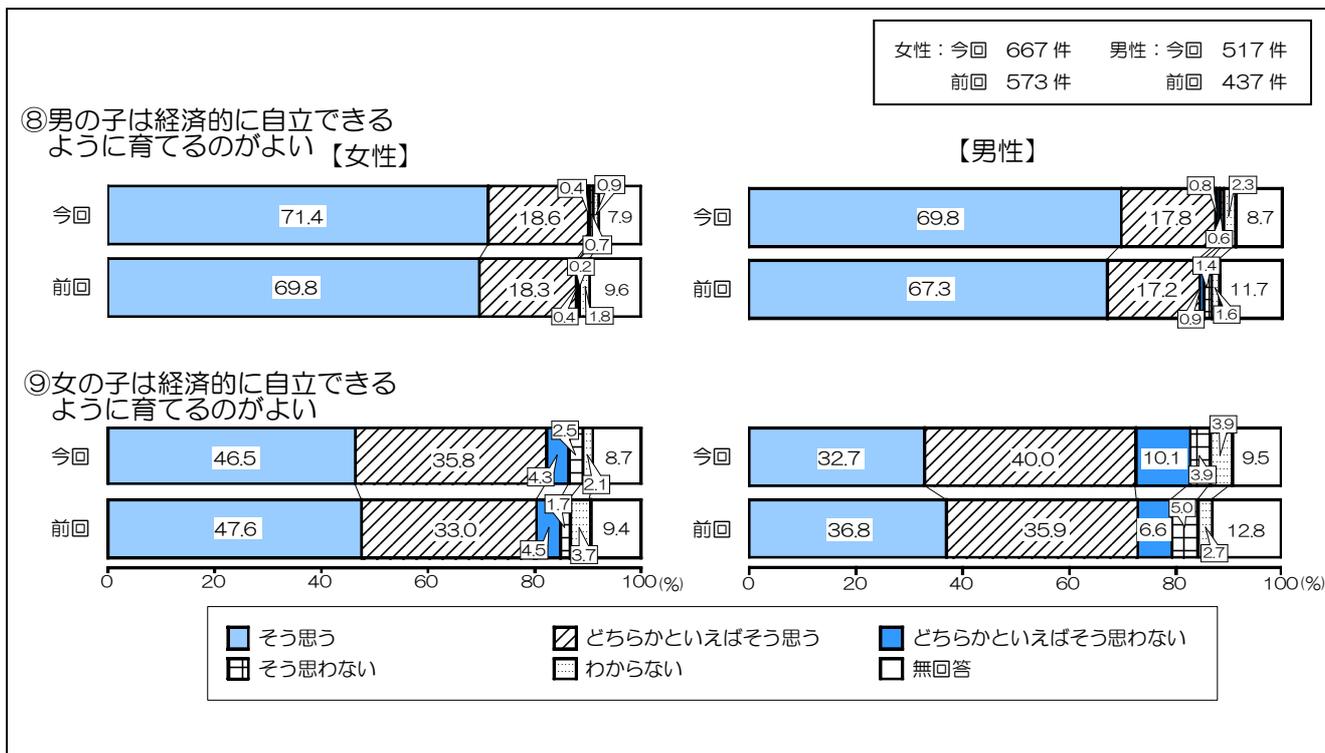


⑦女の子は家事ができるように育てるのがよい



0 20 40 60 80 100(%)

そう思う
 
 どちらかといえばそう思う
 
 どちらかといえばそう思わない
 
 そう思わない
 
 わからない
 
 無回答



### 《ポイント》

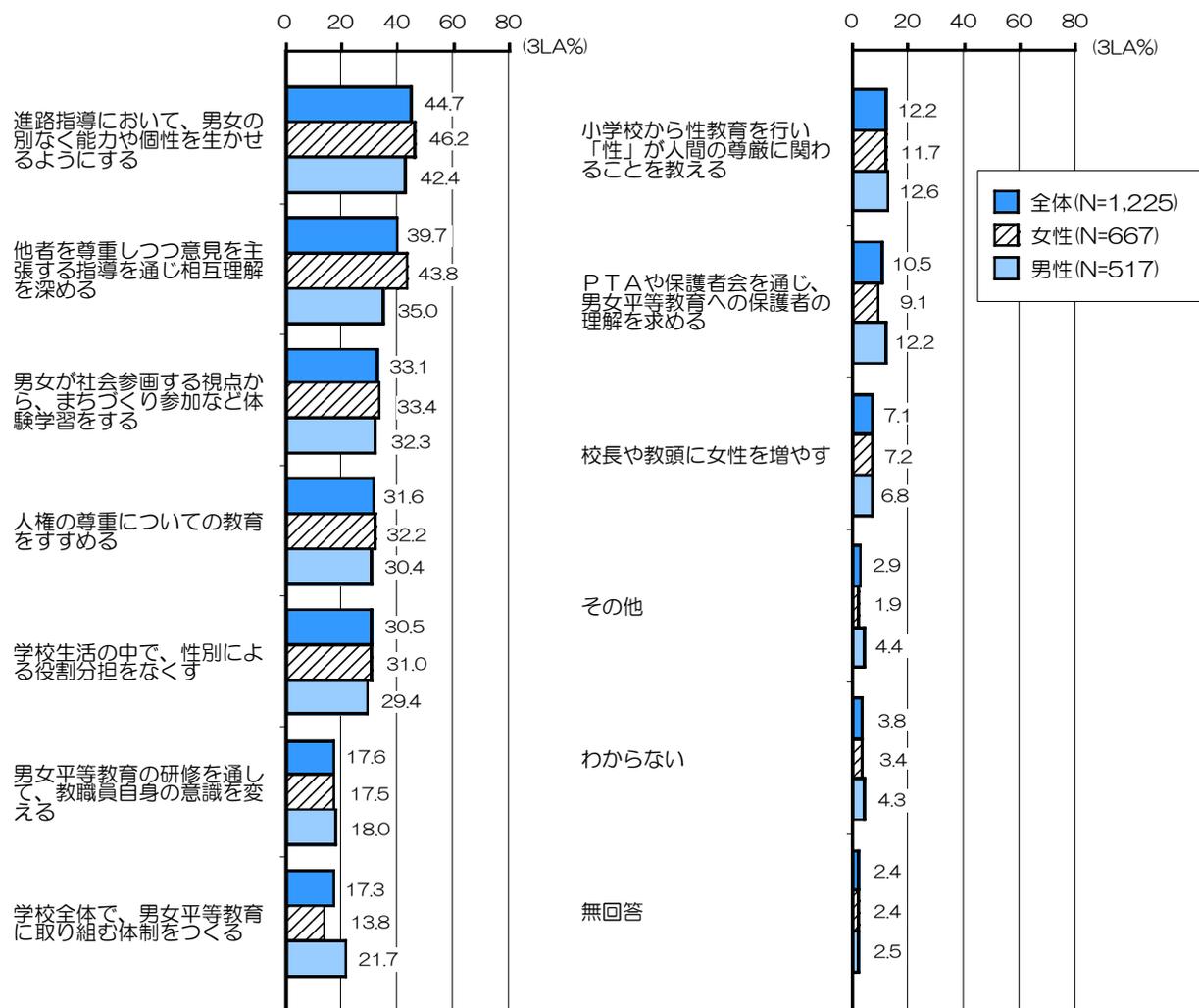
- 「親が仕事のために、子育て支援サービスを活用してもよい」、「男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい」などでは、前回よりも男女とも肯定的な意見は増加している。
- 「子どもの世話の大部分は、男親にもできる」は、女性で肯定的な意見が増加し、男性で否定的な意見が増加している。

前回調査と比較すると、変化の大きかった項目としては、「③親が仕事のために、子育て支援サービスを活用してもよい」で男女とも、『肯定的意見』が前回調査よりも増加し、女性では11.6ポイント、男性では10.6ポイントの増加となっている。「⑤男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい」でも男女ともに『肯定的意見』は前回調査よりも増加しているが、「そう思う」という人は男女ともに減少している。(図4-3-2)

#### 4-4 男女平等教育をすすめるために学校に期待すること

問17 男女平等教育をすすめるために、学校にどのようなことを期待しますか。(3つまでに○印)

図4-4 男女平等教育をすすめるために学校に期待すること



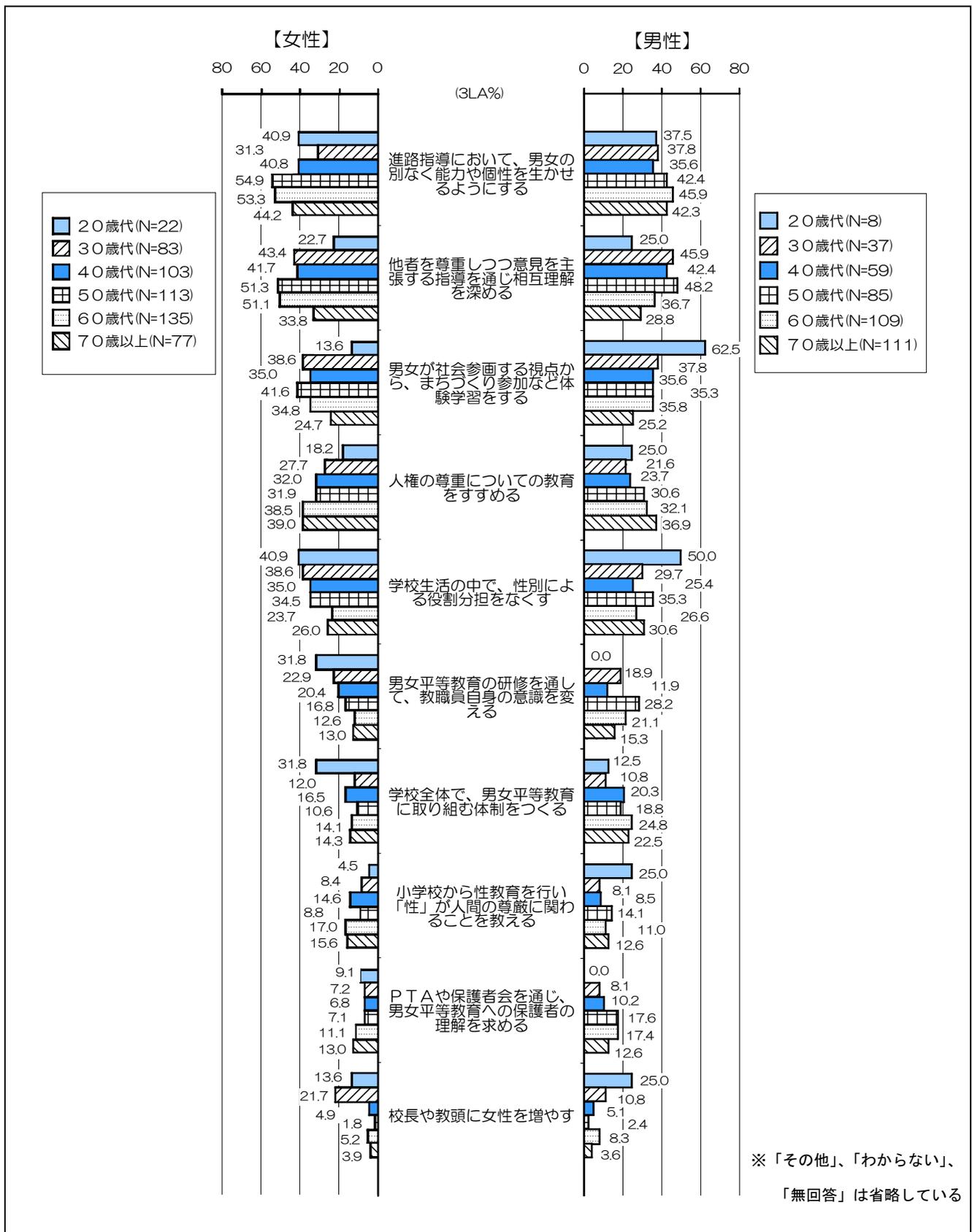
#### 《ポイント》

- 「男女の別なく個性を生かす」、「他者を尊重しつつ相互理解を深める」などに期待する割合が高い。
- 男女の差があるものとして、「他者を尊重しつつ相互理解を深める」では女性の割合が高く、「学校全体で男女平等教育に取り組む」では、男性の方が高い。

男女平等教育をすすめるために学校に期待することについて、全体では、「進路指導において、男女の別なく能力や個性を生かせるようにする」が44.7%と最も高く、次いで、「他者を尊重しつつ意見を主張する指導を通じ相互理解を深める」が39.7%、「男女が社会参画する視点から、まちづくり参加など体験学習をする」が33.1%となっている。

性別にみると、男女差のあるものとして、「他者を尊重しつつ意見を主張する指導を通じ相互理解を深める」では8.8ポイント女性が高く、「学校全体で、男女平等教育に取り組む体制をつくる」では7.9ポイント男性が高くなっている。(図4-4)

図4-4-1 性年齢別 男女平等教育をすすめるために学校に期待すること  
(子どもがいる人のみ)



## 《ポイント》

- 「進路指導において、男女の別なく能力や個性を生かす」は、男女とも 50 歳代以上で高い。
- 女性では、若年層ほど「学校生活で性別役割分担をなくす」、「教職員自身の意識を変える」などが高い。

男女平等教育をすすめるために学校に期待することについて、子どものいる人のみ性年齢別にみると、「進路指導において、男女の別なく能力や個性を生かせるようにする」は女性の 50、60 歳代で半数以上、男性は 50 歳代以上の年代で 4 割以上と高年齢層で高い。「人権の尊重についての教育をすすめる」は、男女とも年代が上るほど割合は高くなっている。逆に、「学校生活の中で、性別による役割分担をなくす」、「男女平等教育の研修を通して、教職員自身の意識を変える」では、女性で年代が下がるほど割合は高くなっている。(図 4-4-1)